



わが校の取り組み・私の工夫

第5回

「初期指導」

このコーナーでは、進路指導・学習指導など、さまざまなテーマで高校の取り組みや先生方の工夫を紹介する。

今回のテーマは、「初期指導」である。高校1年次の指導と、なかでも1学期の指導に注目した。2020年3月以降は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応で、急遽休校の措置をとった学校も多く、4月の時点でどのような状況になっているか予想が難しい。例年とは異なる対応をせざるを得ない状況になっているかもしれないが、指導の一助になれば幸いである。

今回は、Part1として初期指導に関する高校教員へのアンケート結果^(注)、Part2として1年次で学習習慣や学

習スタイル確立に向けた指導を行うとともに、総合的な探究の時間に行う地域に根ざした探究学習で、将来につながる力を育成している群馬県の前橋市立前橋高等学校の取り組みを紹介する。

Contents

Part 1	
初期指導に関する高校教員へのアンケート結果	p32
Part 2	高校の取り組み
前橋市立前橋高等学校	p35

Part 1

初期指導に関する高校教員へのアンケート結果

約9割の教員が
高校1年次の指導に課題を感じる

今回のテーマである初期指導について、高校の先生方へ3つの質問を行った。その結果を中心に、初期指導の課題や各学校の取り組みを見ていく。

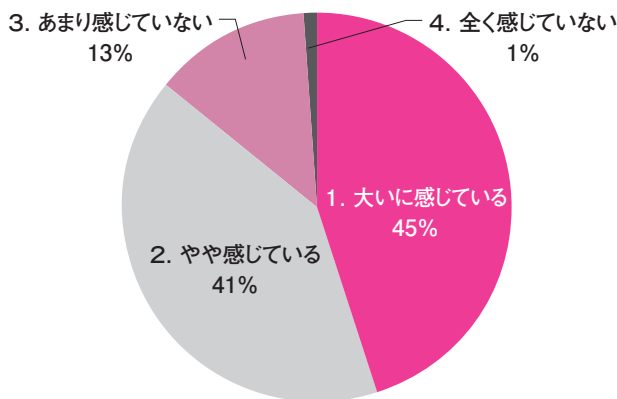
まず、「高校1年次の指導に課題を感じているか」という質問に対しては、86%の先生方が「課題を感じている」（「1. 大いに感じている」「2. やや感じている」の合計）と回答した。

次に、「課題を感じている」（選択肢1と2）を選んだ場合に、感じている課題を自由記述で書いてもらった。その内容を見ると進路指導に関する記述もあるが、学力や学習方法、学習習慣の確立に関する記述がかなり多い。学力低下、学習習慣が定着していないこと、中学校までの指導に対する意見、生徒のコミュニケーションに関する記述が多く見られた。

基礎学力・学力の低下、学習習慣の定着が課題

- 以前より基礎学力が低い生徒の割合が多く、授業・クラス

◆高校1年次の指導に課題を感じていますか (N=162)



運営が困難になりつつある。

- 入学してくる新入生の学力（特に数学）が低下傾向にある点。
- 毎年基礎学力が落ちている。特に、意見は言うが机に向かうのは苦手な生徒が増えていると感じる。
- 入学してくる生徒の学力水準が年々低下している。学習習慣が定着していない生徒の割合が増加しており、「勉強の仕方」から教える必要がある。
- 学習習慣が確立できている生徒が少ない。学習方法などをしっかりガイダンスする機会を増やすことや、個別に指導する必要がある。

(注) [2019年度 Guideline10月号、11月号に関するアンケート] Webで実施 (2019年12月13日～2020年1月5日)。全体では182名が回答。

- 自学の習慣がなく、高校入学後に学習が停滞する生徒が多い。また、中学生の頃に塾で学習をサポートしてもらった生徒が多いからなのか、手探りで学習に取り組むことをせず、最も効率的な方法を教員に尋ねる生徒が多い。
- 入学時の学力差や学習に対する姿勢の違いが年々大きくなっており、一斉指導が成り立ちづらくなっていると感じる。
- 一人ひとりの学力、学習習慣がまちまちで、そういった生徒たちを同じ教室で指導するにはこちらの授業改善が急務。

中学校との接続に関する課題

- 中学での学習不足の生徒がある程度いるので、いきなり高校1年のレベルで進めていくのが困難である。
- 中学校との学習「量」のギャップが大きい。学習方法そのものの指導を初年度から丁寧に行っていく必要がある。
- 中学校の段階での学習習慣が身につけていない生徒が多い。また、「けじめ」や「切替」が上手くできない生徒が増えているように感じる。
- 中学生から高校生になって、学習に取り組む姿勢を変化させる必要があるが、なかなかうまく指導できていないと感じている。
- 中学での学習で今はICTなどを利用して、わかりやすい効率的な授業を行っていると思うのだが、入学してくる生徒の学力は例年と変化がないか、または落ちている。ICTを利用した教育に問題も感じている。しかし、知識はともかくとして、議論できる生徒は増加していると思う。

英語や中高一貫校の指導で感じる課題

- アルファベットが書けない。辞書（紙、含む）を購入せずに、授業を受ける。
- 英語基礎力の低下。英語嫌いの増加。英語力の生徒間格差が広がっていること。
- 一貫校ではあるが高校からの入学者もいる。中学からの生徒と高校からの生徒で、高校での学習に対する温度差がある。入試を経験し、学校に慣れることで精一杯の高校からの生徒は、なかなか学習習慣が定着しない。さらに、格段に増える学習量と早いスピード。さまざまなことが重なり、いっぱいいっぱいの子が多いように感じている。
- 中高一貫校特有の中だるみにあたる学年。どのように、大学受験に向けた意識付けをしていくかが課題。

進路意識の醸成が課題

- 高校3年間を大きく左右するのは1年生の指導だと思うので、課題は多いと思っている。その中でも、とにかく進路の方向性を決めさせること。これが最優先ではないかと思っている。
- 大学受験がまだ遠いものというイメージ。意識付けの進路指導体制が弱い。
- 生徒の力をどうやって伸ばすのか。次の進路にどうやって目を向けさせるか。
- 「探究」が形だけの指導になってしまわないか……。進路学習とどのようにクロスオーバーさせていくかが課題。

生徒の性格・人のかかわり、特別な支援など

- 基本的にまじめな生徒が多いが、失敗を恐れる場合が多い。
- 粘り強く学ぶという姿勢が弱くなっているように感じる。
- 人の話が聞けない（静かに聞いているけど、理解していない）、自分の頭で考えない、文章が読めない・書けない、そんな生徒がたくさんいること。
- 非常に子供っぽく感じること、級友とトラブルになり、それを自力で解決できないなど、人に揉まれ慣れていないで大きくなってきた子供が多いように感じる。母子家庭、父子家庭等の多さに驚いている。このまま家族も親戚も友人も地域社会も小さな社会で育てて大人になった場合、会社や地域社会に揉まれ慣れないために拒否反応を示す割合が多くなっていくように思う。
- 全体で説明したことが自分にとって必要ではないような感覚で聞いている生徒が増えた。わからなければ、周囲に聞いたらいいというような感覚のようである。自分が失敗したことを自分に原因があるように感じられず、周囲に原因があるように捉えがちである。
- 一斉に授業を受けて学び理解できる生徒が減ってきたように感じる。個別に対応することを最初から期待している節がある。
- 学力をはじめ、多種多様な生徒が多い。また、特別支援を必要とする生徒が増えている。

高校1年次の指導で大切にしていること 伸ばしたい資質・能力とは？

高校1年次の指導の中で大切にしている点や、生徒のどのような資質・能力や意欲を伸ばしたいかを記述してもらった。課題として多く挙がっていた学力の向上や学習習慣の定着をまず大切にしているという回答が多かったが、「課題」に関する記述と比べて、進路意識を育てることや、生徒の自主性や学ぶ態度、自己認識力を高めたいという内容も多く見られた。

学習習慣の定着を大切に

- 中学生までに家庭学習が定着している生徒がほとんどいないので、家庭での学習時間をきちんと確保すること。主体的に自分の進路や学習について考え、時間の管理をきちんと自分でさせること。
- まずは、学習習慣を定着させること。基礎力なしに応用力はつかないことを常々伝えている。一方で、生徒の興味関心を広げる活動を、各教科がそれぞれ工夫しながら行っている。図書館を活用した授業などがその例であろう。
- 家庭学習習慣の確立。やはり中学までの学習と高校での学習は違うので、早く高校の学習に慣れるよう、各教科で学習方法などを話している。
- まずは、学習習慣を身につけさせることから。そして、自分の意見を自分の言葉で表現できる力を伸ばしたいと考えている。
- 予習、授業、復習、小テスト、試験のサイクル。高校生活



をどう過ごすかのパターンを身につける。手帳を使って自己管理をする。私は、最終的には疑問に思うことや探究心が身につくことを重視しているが、それは国語・数学・英語の基本なしでは育たない。

基礎知識・学力の定着を大切に

- 中学での学習スタイルから、高校での学習スタイルへの切り替えを重視している。基礎基本を徹底することや知識の関連づけを大切にしている。
- 国数英の基礎学力を伸ばす3年間を見据えた指導の体系化。目線合わせの重要性。
- 基礎学力の定着。自分で考えて行動する姿勢を養いたい。
- 思考力を高めるための基礎を固めることを大切にしている。
- 難関大学の受験に必要な基礎力をしっかりとつけさせる。
- まずはベースとなる知識・技能にしっかり取り組む。2学期以降は探究学習も取り入れつつ、学力の3要素をバランスよく鍛える。

生徒の学習意欲や自主性・学ぶ態度を大切に

- まずは、高校に慣れ、自分の居場所を見つけさせること。知的好奇心を刺激し、意欲を喚起しつつ、本質的理解への欲求を高めること。
- とにかく毎日の学校生活を前向きに捉えてほしいと考えて関わっている。また知的好奇心を豊かに持ってほしい。スマホやゲームもいいが、読書や思索で人生を考える高校生活のスタートを、と常に考えている。
- 本校に第一希望で入学した生徒は少ないと考えられる。授業等を通して達成感を感じさせ、少しでも優れた面を伸ばすことができればと思う。
- 人に揉まれることを少しずつさせていきたいと思い、エンカウンター等は必ずやっている。また、発言を否定しない、発言の意図を大切にしているようにしている。
- 自分で計画して学習する能力を伸ばしたい。
- あいさつができるようにする。(職員室などへの)入退室などのマナーを身につける。(卒業後を見据えて)主体的に選択する力や学習に対する意識の向上。
- 面談を定期的に行い、生徒の変化に早めに気づけるようにしている。ペアワーク、グループワークを適宜取り入れ、良好な人間関係を築くことができるようにしている。

生徒の進路意識の醸成を大切に

- なるべく早い段階で学習の目標となる志望校を決めさせる。
- 適性検査や懇談等を通し、本人の適性や能力、将来への希望や関心等を見極める努力。
- 学力的には国公立大受験に対応できる基礎基本の定着を図るとともに、将来の進路を見据えた職業理解、学部・学科研究を促したい。
- 本校では探究から自らのキャリアを見出すことを教育の柱にしている。引き続き、これは大切にしたい。
- 科学技術に関する興味関心を伸ばし、2、3年次、さらには大学での学びにつなげ、大学院、そして社会で活躍でき

る科学技術系人材になってほしいと考えている。

- 視野を広げる。学びたいことの「根っこ」を固める。
- 進路希望をリセットした状態から考えること。自分のしたいことと自分が向いていることを理解する。

入学前から1学期までで力を入れていること

最後に、特に入学前から1学期頃までの初期指導において力を入れていることを聞いた。オリエンテーションや教科ガイダンスなどの実施、生徒を理解することに重点を置き、面談を行うといった取り組みが行われている。

高校に慣れる、学習習慣の確立に関する取り組み

- 入学前課題の徹底。
- 起床から就寝までの生活リズムの確立。中学校までと異なり、通学に時間がかかる生徒も増えるので。
- 高校での国数英の学習方法の定着。中学からのライフスタイルの変化に慣れること。
- 学校のルールに慣れさせること。
- 第一志望校に失敗した生徒のモチベーション構築。
- 学習習慣を定着させることを意識している。一方で、各教科で課す課題が多くなりすぎると、終わることが困難な生徒が出てしまうので、調節しながら、各教科が課題を課し、自宅でもしっかり学習するような環境作りを心がけている。
- 学習時間の調査をし、学習時間に問題がある生徒には指導をしている。
- 週末課題や予習を課すことで、家庭学習の習慣を早く確立するよう注意している。

ガイダンス・面談・進路意識の醸成

- 各教科で授業ガイダンスを行っている。
- 面談を多く実施し、生徒の生活環境の把握、高校での学習への切り替えに努めている。
- 初期指導(入学前から1学期頃まで)は、全生徒と全教師が昼休みや放課後あるいは午後の授業を用いて、一対一で学校生活全般について話し合う面談週間を取り入れている。
- 3年間の進路ストーリーを考えること。将来のビジョンを持たせること。長期・中期・短期目標を立てさせること。
- 学びのポートフォリオ(長期目標設定)、学びのアクションプラン(中期目標設定)、そして既存の家庭学習時間報告書(短期目標設定)を生徒の目的意識醸成のためのサポートツールとして活用することに力を入れている。生徒のよさの自覚化を促しながら、そのよさに基づいた目標設定を重要なポイントとしている。そのために、相互承認文化を形成し、心理的安全性の高いクラス環境を作るための取り組みも導入して実施した。
- 狭い視野のまま進路決定をすることがないように、「3年になってから」ではなく「3年間かかって」段階的に進路学習を深めて進路を決めるという考え方を力説している。
- 保護者も巻き込んで大学進学を意識させる。高校卒業後の多様な進路を意識させる。

前橋市立前橋高等学校

1年次の学習スタイル確立に向けた指導と
地域に根ざした探究学習で、将来につながる力を育成

前橋市立前橋高等学校は、前橋市唯一の市立高校として、地域社会を支え、貢献する人材の育成をめざしている。また、「基礎・基本の確実な習得と生き方教育を充実させ、生徒一人ひとりが自分のよさを見つけ伸ばし、自分の人生を切り拓いていく」ことを基本としている。高校1年次の指導を重視しており、1年次では「高校での学習スタイルの確立」をめざすとともに、1年次から探究学習を通し、学力の3要素をバランスよく育成する取り組みを行っている。今回は、特に1年次の指導を中心に、進路指導主事の田崎潤先生と、進路指導部で1学年主任の茂野大樹先生に、話をうかがった。



進路指導主事
田崎潤先生

進路指導部1学年主任
茂野大樹先生

◇ オリエンテーションと ◇ 手厚い二者面談で ◇ 学び方の習得を支援

前橋市立前橋高等学校では、生徒の約80%が国公立大学・私立大学を中心とする4年制大学への進学をめざしている。生徒の気質は、「小・中学校でリーダーとしての経験があまりない」と先生方は感じている。そのため、高校3年間でいかに、「学びに向かう力」や「リーダーシップ」を育成するかが課題であった。

そこで2019年度に、高校3年間で育成をめざす力として、「学びに向かう力」「課題発見力」「自己管理能力」「計画立案力」「協働力」「リーダーシップ」の6つを定め、それぞれ5段階のルーブリックを設定し、めざすべき目標や到達点を明確にした。既に進められていた、校歌の一節をとって名づけた進路実現計画「さ霧晴れて」<表>とともに、総合的な探究の時間の中で、探究活動を通して6つの力を育成することにした。

まず、高校生活のスタートとなる1年生の4月に、生徒の現状把握と主体的に学ぶ姿勢の確立に向けて、新入生学習オリエンテーション、学

習時間調査、進路希望調査、進路適性検査、手帳活用指導、二者面談、6つの力の自己評価を行っている。

このうち学習時間調査は、1年生の4月だけでなく、1・2年生は毎年5回、3年生は4回、中間試験と期末試験の前に実施して、指導効果の検証や、生徒が自身の学習状況を振り返る材料としている。「1年生4月の家庭学習時間は、毎年非常に少ない結果が出ます。生徒に聞くと学習習慣がないだけでなく、予習や復習の仕方がわかっていないようでした。そこで新入生学習オリエンテーションでは、国語・数学・英語について、予習・復習をする箇所や方法、授業の受け方を指導することにしました」(田崎潤先生)。「例えば英語科では、高校では、あらかじめ単語の意味を予習した上で授業に臨むといったことや、電子辞書の使い方を指導するほか、英語は知識を習得するだけでなく学んだことを使ってコミュニケーションすることが大切であり、コミュニケーション力を高めるために、授業中にペアワークやグループワークを行うことを伝えます」(茂野大樹先生)

また、同校ではシラバスを年度当

初に生徒に配布しており、1年生には、授業が軌道に乗る4月中頃までシラバスを持参して、単元や各授業の目標を確認しながら学ぶように指導している。

そして学習・進路・生徒指導において重視しているのが二者面談である。二者面談は、各学年、年6回実施する。4月の面談は、生徒との信頼関係を構築する上でとても大切だと考えており、4月中旬に授業時間をカットして実施している。特に、1年生の4月の二者面談の内容は進路希望や高校での学習についてだけでなく、これまでの家庭学習スタイルについても聞く。それ以降は、定期試験や模擬試験の結果も踏まえて、次の試験に向けての数値目標に達するための学習計画について個別に指導する。なお、2020年度から、担任の負担軽減も含め、2学期中間試験後に行う面談も、授業時間をカットして内容を充実させることにした。

◇ 就きたい職業のための ◇ 学部・学科選びではなく ◇ 社会との関わり方から ◇ 将来を考える

田崎先生が1年生の指導で大切に



<表> 1 学年 進路実現計画「さ霧晴れて」より

目標	学習習慣・学力向上…中学との違いを意識させ、学習に取り組む習慣を育み、基礎学力の定着を図る。全国偏差値50を目指す。進路選択……職業接続の観点を踏まえ、将来の進路を考えた適切なコース選択・科目選択を行えるよう支援する。進路実現……大学進学の意味について理解させ、興味・関心を持てる学びを探る。				
学期目標	高校での授業に適應できる自主学習体制の確立を目指す				
時系列	4月	5月	6月	7月	
生徒の学習習慣・学力向上への動き	学習習慣 確立	二者面談① 面談週間実施 学習時間調査(学年)①	GWの過ごし方 定期試験学習計画	定期試験学習計画 学習時間調査(進路)②	二者面談② 夏季休業学習計画
	進路行事・講演会	進路希望調査① 進路適性検査 新入生学習オリエンテーション 手帳活用指導		進路講演会	コース・科目選択調査① 「進路の手引き」の解説
学年・担任指導計画	生徒把握 大学見学会計画	GWの過ごし方指導 定期試験に向けての指導	模試に向けた指導 定期試験に向けての指導	夏季休業学習計画指導 学習合宿参加指導	
二者面談重点項目	生徒の実態把握(学習状況、進路希望) 家庭学習指導		定期試験、学習時間調査分析からの反省点と今後の課題の確認 夏季休業計画書の点検と修正指導		

(2019年度1学年の「さ霧晴れて」より一部を抜粋して掲載)

している点は、「まずはベースとなる知識・技能の育成にしっかり取り組み、2学期以降は探究学習も取り入れつつ、学力の3要素をバランスよく鍛える」である。知識・技能の習得には、高校での学習スタイルの確立が重要であり、そのために、1年生の4月はこれらの取り組みを行うが、2学期以降は「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、協働力」に関する取り組みも始める。そのため、探究学習の内容を2018年度から変更した。コンセプトを「なりたいジブンになる」から「なりたいジブンをみつける」に変え、職業選択から学部・学科を考える職業逆算型の出口指導ではなく、まず、身近な社会の課題探究を行った上で、興味ある学びを発見し、進路希望を決定するという、進路探究型の学び指導を行うことにした。そして、総合的な探究の時間で行う探究学習を、生徒たちの成長のイメージも重ねて“めぶく”と名づけた。

「特に近年は、世の中に情報が溢れ、今ある職業が将来はなくなるかもしれないといった情報もあって、生徒たちが簡単に進路を決められる状況ではありません。そのような状況において、高校はどのような仕事に就いてもベースとなる力を身につ

ける場所であると考えています。本校では将来就きたい職業を考えると、いうより、まず、将来自分がどのように社会と関わっていききたいか、社会の中でどのような存在になりたいかを生徒たちに考えてもらうことにしました。ですから進路が決まらない生徒にはできるだけ大学進学を薦めて、大学で深く、広く勉強をした上で進路を決め、社会で羽ばたいてほしいと考えています」(田崎先生)

こうした方針に基づき、探究学習は、1・2年生を通して前橋市の課題発見と活性化に向けた“芽”を考え、発信する活動を行うことにした。また、2015年度から行っている、市長選挙模擬投票などの主権者教育も探究学習に組み込んだ。

“めぶく”は3年間のストーリーで組み立てられており、1年生は「将来を考えるためには、まず社会を知る必要がある」ことから INPUT をテーマとし、前橋市の活性化につながる芽を探し出す。続く2年生には OUTPUT をテーマとし、1年生で発見した芽を育てるための方策を考え、提案・発表する。3年生は、これまでの学びを通して気づいた進路志望の芽を育て、花を咲かせるための CHALLENGE がテーマとなる。

◇◇◇ 地域の大人との関わりや
◇◇◇ 模擬選挙を通し
◇◇◇ 社会に目を向け関わる姿勢を
◇◇◇ 身につける

“めぶく”について、1年生の取り組みを中心に見ると、1学期は、4月の新入生学習オリエンテーションを皮切りに、探究学習オリエンテーション、進路適性検査、進路関係イベントへの参加などを行い、2学期から探究学習を本格的に開始する。

「前橋市の課題発見と活性化」というテーマを探究するにあたって、文献やインターネットで前橋市について調べるだけでなく、前橋市で活躍する大人と関わりを持ちながら考えを深めていく。「例えば、昨年9月には、前橋市の中心部でシェアオフィスなどを運営する一般社団法人の代表理事と、前橋市に本社を置き関東一円で電気工事業を展開する会社の社長を迎え、前橋市の魅力や将来性、企業ビジョンを語っていただきました。前橋市を担う若手実業家のお二人から『これからどのようにして前橋を面白くしていくか』『人が頑張るのは幸せになるため』といった前向きな話があり、生徒の心に響いたようです。ほかにも市役所の方など、さまざまな立場の方にお話を

お願いしています」(茂野先生)

12月には、2年生による前橋市長模擬選挙に1年生は有権者として参加し、投票する。続く1月には前橋市の中心商店街に赴き、市や商店街の課題に関するインタビューを行う。インタビューの前には、探究学習等で協力を得ている共愛学園前橋国際大学の学生にも授業に加わってもらい、模擬選挙のマニフェストを参考にしながら質問項目を検討する。

2月は、経済産業省による「『未来の教室』実証事業」^(注1)の一環として、市内企業訪問と、その事前・事後学習を行う。「企業訪問は、仕事体験や職業調べではなく、企業がどのように他の企業や世界とつながっているか、商品がどのような過程を経て自分たち消費者の手元に届くかなど、世の中の仕組みを学ぶのが目的です。同時に、例えば、メーカーにはものを作るだけでなく、営業や経理などいろいろな職種の人が出て成り立っているという、企業の仕組みも学びます」(田崎先生)

「一連の活動で、多くの大人から表情、熱意などを感じながら話を聴くことで、生徒は自分たちが住む前橋市の現状を肌で感じることが出来ます。そこから、自分ならどのような側面から関われるかと、将来につながる考えを持てるようになると良いと思っています」(茂野先生)

なお、OUTPUTがテーマとなる2年生では、1年生でのインタビューや企業訪問をもとに、大学生の協力を得ながら前橋市の現状と将来ビジョンをまとめ、ポスターセッションを行う。さらに、「まえばし学校フェスタ」^(注2)でもプレゼンテーションする。12月には、大学生とともに、前橋市長のマニフェストを考え、

大学生を市長候補に立てて応援演説をし、模擬選挙を行う。

◇ 2年間の探究学習を経て 「6つの力」全ての 自己評価が上昇

以上のような取り組みの効果について聞くと、茂野先生は、「1年生に進路に関する質問のアンケートをとったところ『AIに負けない職業は何ですか?』という質問を書いた生徒が数名いました。講演などでAIについて知ったことで、講演者の話が生徒の心に残り、将来について考え始めたのだと思います」と言い、田崎先生も「この質問をきっかけに、探究学習はAIではなく人間だからこそできる思考力を鍛えるための活動だということを、生徒に伝えました」と話す。また茂野先生は、「当初、商店街でのインタビューに気が乗らない様子を見せる生徒もいましたが、終わってみると、生徒の顔が生き生きとしていました。大人と関わる中

でこれまで知らなかった世界を知る楽しさを感じてくれたのだと思います」と手応えを語る。

12月に、このように内容を見直した探究学習を行った2年生に対して、「6つの力」についての自己評価アンケートをとったところ、入学時には「計画立案力」「リーダーシップ」は5段階中平均2程度であったのが3近くなり、1年生では2以上だった「協働力」は3以上に上昇するなど全ての項目の評価が上がった。このように、課題であった「学びに向かう力」「リーダーシップ」のほか、学力の3要素が確実についている様子がわかった。

“めぶく”は、2020年度の3年生で完成年度となる。1・2年生での“めぶく”における体験を経て、生徒自身が深めたい学びに気づき、自らの進路の芽を育て、3年生でいよいよ花を咲かせることとなる。先生たちも大きな花が咲くことを期待している。

前橋市立前橋高等学校

◇所在地：群馬県前橋市上細井町2211-3

◇沿革：1929(昭和4)年 前橋市立高等家政女学校創立
1943(昭和18)年 前橋市立高等女学校と改称
1948(昭和23)年 前橋市立女子高等学校と改称
普通科・家政科を併設
1994(平成6)年 前橋市立前橋高等学校と改称。家政科募集停止
1997(平成9)年 現在地に移転

◇学級編成：各学年6クラス

◇生徒数：男子273名、女子438名(2019年5月1日現在)

◇特色：創立以来、前橋市の女子校としての歴史と伝統を誇ってきた。男女共学化以降、4年制大学への進学者が増え、現在、2年次からきめ細やかなコース別クラス編成をとって、生徒の進路実現を支援している。部活動も盛ん。“めぶく”は、文部科学省と経済産業省による共同実施の、2019年度第9回「キャリア教育推進連携表彰」で優秀賞を受賞し、普通科進学高校として行政・地域・経済界などの協力を得ながら行った取り組みが高く評価された。

◇卒業生の進路：2019年3月31日現在 卒業生233名

・進路：4年制大学124名、短期大学17名、専修・各種学校68名、就職11名、その他13名
・合格者の内訳(現役生、延数)：国公立大学16名、私立大学177名、短期大学22名、専修・各種学校72名

(注1)「未来の教室」実証事業：経済産業省による「未来を見通しにくい時代を生きる子ども達一人ひとりが、未来を創る当事者(チェンジメイカー)に育つための学習環境を構築するため」の事業。

(注2)まえばし学校フェスタでは、前橋市立の小・中・高校などが市民に日頃の学習の成果を発表・展示する。